



まぐろしき
マメ得知識

ポケモンのマンホールふた
「ポケふた」が倉敷市に登場!

ゲームやアニメで人気の「ポケットモンスター (ポケモン)」のキャラクターと倉敷市の町並みや自然、特産品などがデザインされたマンホールふた「ポケふた」4枚が、(株)ポケモンから無償提供され、市内4カ所に設置されました。

下水道に関心を持ち理解を深めてもらうこと、また観光振興を図ることを目的に、倉敷市が、(株)ポケモンが実施する「ポケふた設置事業」へ応募したところ、多くの自治体の中から選ばれたもので、県内では初めての設置となります。



▲市内4カ所に設置した「ポケふた」。人気キャラクターのルカリオ・市特産品の桃・瀬戸大橋をデザインしたポケふた(左上)は、鷲羽山展望台に設置しています。



©2021 Pokémon. ©1995-2021 Nintendo / Creatures Inc. / GAME FREAK inc. ポケットモンスター・ポケモン・Pokémon は任天堂・クリエーターズ・ゲームフリークの登録商標です。

倉敷の「今」を伝えるニュースレター

2021年10月吉日発行

クラシキ文華新聞

Vol. 26

第26号発行のご挨拶



岡山県南部に位置する、倉敷市一。町家や古民家を利用した新たな観光スポットが次々と生まれている「倉敷美観地区」、日本初の私立西洋美術館である「大原美術館」、繊維産業を進化させ続けてきた「国産ジーンズ発祥の地・児島」など、歴史と伝統が常にアップデートされ、新しい文化が生まれています。そんな、倉敷で華開く新しい文化「クラシキ文華」の魅力をお伝えする「クラシキ文華新聞」第26号をお届けします。ぜひ、ご一読ください。



歴史と文学のまち、真備
奈良時代の偉人「吉備真備公」ゆかりの地であり、作家・横溝正史が、名探偵「金田一耕助」を生み出したまち。

果物と花のまち、船穂
温暖な気候と、高梁川の豊かな水を生かし、マスカットやスイートピーなどの栽培が盛んなまち。

大原美術館
倉敷の実業家・大原孫三郎が、洋画家・児島虎次郎に託して収集した、西洋美術などを展示する日本初の私立西洋美術館。

倉敷美観地区
天領として栄えた時代の風情と美しい景観を色濃く残すまち。

国産ジーンズ発祥の地、児島
足袋・学生服・作業服と、繊維のまちとして発展し、日本で初めてジーンズを国産化しました。全国のジーンズファンからの注目を集めています。

水島コンビナート
瀬戸内海に臨む、約2500haの空間に、250を超える事業所が立地する水島コンビナート。美しく光る夜景は「夜景100選」にも選ばれています。

レトロな港町、玉島
備中の玄関として栄えた港町で今でも当時の商家や土蔵が残っています。昭和レトロな商店街など、ノスタルジックな町並み散歩も楽しめます。

倉敷って、こんなところ。

倉敷で、今から未来にできること

SDGsな
特集 **クラシキ**

はぎはらこうぎょう
萩原工業

2 気候変動に具体的な対策を	3 健康とウェルビーイングを促進	5 ジェンダー平等を推進	8 豊かさを生み出す持続可能な経済を
9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 持続可能な都市とコミュニティを築こう	12 つくばない消費を推進
13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさも守ろう	17 パートナリシップで目標を達成しよう

倉敷市に本社を構える萩原工業は、国内生産量の9割を誇るブルーシートの一大メーカーです。倉敷をはじめとした岡山県内の自社工場で、高い品質のブルーシートを生産しています。もともと萩原工業は、倉敷の特産品「花ござ」の経糸(たていと)を作っていた会社でした。経糸を綿糸からプラスチックへ置き換えたり、そのための機械を自社で開発したりと様々なイノベーション(変革)を起こし、創業から約60年、今ではブルーシートを主軸とした多様なプラスチック加工品や、その技術に応用した産業機械を製造する企業へと成長を遂げました。

同時に、プラスチックを扱うメーカーとしての責任を模索し続けています。生産工程で、どうしても発生してしまうシワが入った規格外のブルーシートをトートバッグとしてアップサイクル(不要なものに手を加え、新たなものに再生)する「BRIDGE SETOUCHI(ブリッジ セトウチ)」のプロジェクトが、2020年7月からスタートしました。生産ロスを、軽くて丈夫でデザイン性も兼ね備えたバッグに再生。さらにバッグの売り上げの3割を寄付し、瀬戸内地域の災害復興や防災基金などに役立てています。



編集後記

今回はブルーシートの「一大メーカー」萩原工業について紹介しました。いかがでしたか？
食欲の秋ですね。倉敷うまれのおいしいものは、お取り寄せできるものもあります！気軽に届かなくてもいいとき、現地へ行くか、いろいろなお店のおいしいものが味わえる時代ありがたいです。みなさんもおうちで倉敷を楽しんでみてはいかがでしょうか。(羽原・野口)

WEBもチェック!
クラシキ文華

<https://citysales.city.kurashiki.okayama.jp/>

クラシキ文華 検索



倉敷市公式 Facebook
<https://www.facebook.com/KurashikiCity>

倉敷市公式 Instagram
https://www.instagram.com/kurashiki_city/

クラシキ文華新聞 Vol. 26
令和3年10月吉日発行
【編集・発行】
クラシキ文華新聞編集部
(倉敷市くらしき情報発信課内)
〒710-8565
岡山県倉敷市西中新田 640
TEL086-426-3061
FAX086-426-4095
pubinfo@city.kurashiki.okayama.jp

「BRIDGE SETOUCHI は、2016年の熊本地震をきっかけに誕生した団体「BRIDGE KUMAMOTO」に由来するものです」と話すのは、代表取締役社長の浅野和志さん。BRIDGE KUMAMOTO が手掛けたのが、地震により被害を受けた家屋を守るために用いられた大量のブルーシートがゴミとして捨てられる前に回収・洗浄・縫製し、トートバッグに蘇らせるという活動。災害というネガティブなイメージから、復興というポジティブなイメージに転換することで、復興の種となるよう「ブルーシート(種)バッグ」と名付けられ、その収益の一部は復興資金として寄付されました。2018年7月に岡山を襲った西日本豪雨では、総社市の社会福祉法人から熊本と同様の活動を岡山でも行おうと萩原工業に声がかかり、「BRIDGE OKAYAMA」が立ち上がり、復興の力となりました。「災害がない平常時にもこの活動を引き継ぎたい。持続可能な形で継続させたい。その想いから始めたのが、今回の BRIDGE SETOUCHI です」。規格外のシートを活用することで、生産ロスの軽減にも一役買い、使用済みに比べて耐久性も向上。プロジェクト名の「SETOUCHI」には、県の粹を取り払い、瀬戸内地域の企業とパートナーシップとなり、持続可能な活動を推進させたいという想いが込められているといいます。



また、さらなる持続可能な社会の実現に向けて、使用済みブルーシートを回収し、新たなブルーシートへとリサイクルする国内初のプロジェクト「Re VALUE + (リバリュープラス)」を2021年2月からスタートさせました。ブルーシートの原料は、ポリエチレンです。本来であればリサイクル可能な素材ですが、その多くが産業廃棄物として破棄されているのが現状です。ブルーシートのトップメーカーとして、自分たちが手掛けたブルーシートから発生する廃プラスチック問題を何とかして解決したい。その想いから始まったのが、このプロジェクトです。

「今の暮らしからプラスチックをすべて排除することは厳しいと思います。生産ロスを新たな製品に再生させたり、ライフサイクルを延ばすことでCO₂削減につなげたり、リサイクルを押し進めたり。そういう循環や仕組みを作ることが、企業としての使命だと思うのです」。プラスチックを扱う企業として再生可能な未来を編み出す活動の広がり、今後も目が離せません。



「創業当初からある経営理念の中に『世のため人のために役立つ会社であらう』という言葉があります。これは当社の姿勢を大きく表す言葉ですが、もともとこのような考えがベースにあったため、SDGsという言葉が浸透する前から、ごく自然なこととして取り組んできました」。そう話す浅野社長が改めて行ったのが、中期経営計画の基本方針がSDGsのどの項目に当てはまるか整理することでした。倉敷市をはじめ、県内外の15の自治体と災害協定を締結、リサイクルの強化など、もともと掲げていた計画がSDGsの12の項目に当てはまることがわかりました。

「そこで重視したのが、深掘りする、強化することでした。格好をつけるだけの表面的なSDGs活動は長続きなんてしません」と浅野社長。萩原工業では女性の採用も積極的に増やし、2018年には保育園も設立。禁煙対策や時間有給制度も取り入れ、誰もが安心・安全に働ける職場環境にも力を入れています。

その行動の原点を尋ねると、「1990年、私が入社して4年目の頃、現地のリサイクルを勉強するために、スイスの都市・ダボスに2週間ほど出張へ赴きました。欧米から10年ほど遅れて日本に来る、だから早く現地を見て体感してこい、という会社の方針でした。当時の日本はバブル真ただ中、使い捨てに拍車がかかる頃に、ダボスで目にしたのはゴミの分別を徹底している人々の姿でした。そして今、カーボンニュートラルやSDGsの動きは欧米諸国では当たり前となりつつあります。日本でも避けては通れない大きな課題として、私たち自身が真剣に受け止め、行動に移さなければなりません」。今後は社員の家族や取引先にも裾野を広げ、その活動の輪を広げていきたいと目標を語ってくれた浅野社長。萩原工業のSDGsへの取り組みは、これからも続いていきます。



市シティセールスサイト

クラシキ文華

もぜひチェックしてください!



歴史と伝統を大切に受け継ぎながらも、新しい暮らし、新しい文化が日々生まれ華開くまち倉敷市。市シティセールスサイト「クラシキ文華〜倉敷のイトコ見つけにいこう。」では、倉敷らしい活動や暮らし、それを支える人々の思いを紹介した特集記事を多数掲載し、随時更新しています。



クラシキ文華〜倉敷のイトコ見つけにいこう。

<https://citysales.city.kurashiki.okayama.jp/>



これまでの特集で紹介した 倉敷うまれの美味しいもの



◀特集9「倉敷うまれの さしすせそ」

豊かでおいしい水、温暖な気候に育まれた米や大豆、小麦などの穀物、瀬戸内の塩…。恵まれた原料で醸造された醤油や味噌は、古くから倉敷の食文化を支え続けてきました。また、1933年の登場から現在まで愛用され続けているウスターソースを筆頭に、特産のフルーツや野菜をたっぷり用いて開発されたドレッシングなど、時代のニーズにマッチした調味料も数多く生み出されています。そんな倉敷生まれの調味料などを紹介しています。



▶特集20「倉敷うまれの 地酒」

「きひ(吉備)のとよ酒は吉美豊酒なり…。倉敷を含むかつての吉備地方の酒は、古の和歌集「歌林捨葉集」に歌われたほどの美酒。中国山地の花崗岩や石灰岩に磨かれた高梁川の雑味がなくまろやかな伏流水と、上質な酒造好適米(酒造りに適した米)、そして江戸時代に誕生した備中杜氏によって味わいはさらに深められてきました。そんな倉敷の蔵元が造る地酒の他、個性的なビールや特産品のフルーツを生かしたワイン・リキュールなどを紹介しています。



◀特集36

「倉敷うまれの ええもんおとりよせ」

豊かな自然に育まれた名品や、代々受け継がれてきた伝統のあの味。お取り寄せできるものの中にも、倉敷うまれの「ええもん」がいっぱい。倉敷に暮らす人々にはおなじみのあんな品・こんな品など、お家に居ながらにして楽しめる倉敷の味を紹介しています。



倉敷市の情報は、[Facebook](https://www.facebook.com/KurashikiCity) (https://www.facebook.com/KurashikiCity) でも紹介しています!